



今年度、利根沼田管内ではトマト、イチゴ、ナスなどの作物でコナジラミ類（写真1）の発生が確認されました。露地栽培では夏～秋にかけて多く見られ、ハウス栽培では冬季でも見られました。コナジラミ類の主要種はオンシツコナジラミ、タバココナジラミの2種であり、作物への吸汁害だけでなくウイルス病を媒介します。特にタバココナジラミは害虫の中でも化学農薬への抵抗性が高いため防除が非常に難しく、1度発生すると根絶するのは困難です。今月号ではコナジラミ類の生態や防除対策について紹介します。

■生態について

コナジラミ類は体長約1mmで目視では種類を見分けることは困難です。広食性で野菜や花き、雑草にも寄生します。高温・乾燥条件を好み、タバココナジラミは氷点下の低温で致死するため、利根沼田地域では屋外で越冬できないと考えられます。25℃の条件では、卵期間約7日、幼虫（写真2）期間約15日と計22日で成虫になります。



写真1 コナジラミ類成虫

■対策について

普段は葉の裏でじっとしていることが多いコナジラミ類ですが餌がなくなると風に乗って移動し、ほ場に侵入する→ほ場が増える→ほ場から出て行くというサイクルを繰り返します。防除については入れない、増やさない、出さないの対策を意識しましょう。



写真2 コナジラミ類幼虫

①入れない対策

気温が高い夏はコナジラミ類の増殖スピードが速くなります。屋外から侵入する数も多いため成虫に効果が高く残効性が長い農薬を使いましょう。屋外

からの侵入を防ぐためにはハウス回りの除草がおすすめです。（写真3）

育苗ハウスから定植するハウスに移動する際も要注意です。コナジラミ類が寄生していないかよく確認して持ち込みましょう。



写真3 ハウス回りの除草

②増やさない対策

天敵昆虫（寄生バチ、カブリダニ類、カスミカメ類）の利用はコナジラミ類の発生を長期間抑えます。確実に効果をあげるためには放飼タイミングをつかむことが大切です。天敵による防除効果は非常に遅効的のため、発生前または発生初期に放飼して事前に増殖させておくことが重要です。天敵を放飼した後は、天敵への影響を考慮して農薬を使用してください。



写真4 コナジラミ類幼虫

また、コナジラミ類の成虫は黄色に誘引される特徴を持ちます。その性質を利用したのが黄色粘着テープを使った防除方法です（写真4）。作物の上部に取り付けるとコナジラミ類の数を減らすことができます。しかし、ほ場の外から見える位置に取り付けると誘い込んでしまうことになるため、外から見えない位置に取り付けましょう。

③出さない対策

施設栽培の場合は、栽培終了後、密閉して蒸し込み処理を行うと（40℃、10日以上）、コナジラミ類を死滅させることができます。蒸し込み処理が使えないほ場では効果が高い農薬を散布し、散布後はすぐに片付けましょう。

担い手・園芸課 園芸指導係(中島)